

# 平成30年度一般入学試験問題

## 小論文

### 【注意事項】

1. この問題冊子には答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、問題冊子と答案用紙の受験番号欄に受験番号を記入しなさい。
3. 問題冊子には問題が1～3ページに記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせなさい。
4. 答案には、必ず鉛筆（黒「HB」「B」程度）またはシャープペンシル（黒「HB」「B」程度）を使用しなさい。
5. 解答は答案用紙の指定された場所に記入しなさい。ただし、解答に関係のないことが書かれた答案は無効にすることがあります。
6. 問題冊子の余白は下書きに使用しても構いません。
7. 問題冊子および答案用紙はどのページも切り離してはいけません。
8. 問題冊子および答案用紙を持ち帰ってはいけません。

受験番号	
------	--

課題 以下の文章を読んで設問に答えなさい。

1980年代の欧米では、これまでの貧困とはだいぶ様相の異なる新しい貧困の「再発見」に注目が集まっていた。それは従来の労働者家族や高齢者の貧困というよりは、学校を出たばかりの、あるいはそこから落ちこぼれた若年単身者の長期失業、ファストフードや家事サービス、警備、娯楽サービスなどの新しいサービス産業に不安定な待遇で従事する女性や母子家庭、移民層などの貧困の「再発見」である。

しかもこれらの貧困は、ホームレスのような極端な形をとったり、都市の周縁部に集住したりすることが少ないため、人々の目にはまるで19世紀までのスラムのような「貧民社会」の再現、「もう一つの社会」の出現のように映った。この新しい貧困は、ヨーロッパでは「社会的排除」、アメリカでは「アンダークラス」などという言葉で呼ばれて、再び政治課題となったのである。社会的排除とは雇用関係や福祉国家の諸制度からも排除されているという意味で、貧困に代わって使われた言葉である。また、アンダークラスとは、文字通り、スラムのような「下層社会」の再現を示した言葉である。

こうした新しい貧困の出現は、80年代以降明確になったポスト工業社会とかグローバル化といわれる新しい社会経済体制への移行の過程で顕著になったといわれている。つまり、工業社会から、金融や情報、さまざまな消費者向けサービスを中心とする新しい産業社会へと移行する中で、新しい貧困が生まれたのである。言葉を換えればそれは、市場がグローバル化し、競争が激化する中で [ a ] が急増し、下請けなど<sup>(1)</sup>アウトソーシングが拡大する過程で生み出されたと言えるであろう。

この新しい産業社会では、金融や情報サービス産業で専門知識を武器に働く人々と、「マクドナルド・プロレタリアート」などと形容される、安い賃金と不安定な雇用で働くサービス労働者に二極分化しつつあるという。

ヨーロッパではこの二極化をAチームとBチーム、一流国民と二流国民などと呼んでいる。こうした呼び方はさしあたり格差の拡大を示すものだが、それに加えてBチームや二流国民と名指された人々が陥った貧困を、「社会的排除 (social exclusion)」という概念によって「再発見」することを強く促したのである。

これは、ラウントリー<sup>註</sup>がモデル化した工業社会の労働者のライフサイクルをもとにして作られた従来の福祉国家の限界を示すものであり、ポスト福祉国家の新たな理念の模索が始まっていることを示している。

たとえば、社会から排除されている人々を再び社会の中へ引き入れて、社会の二極化を克服する社会的包摂 (social inclusion 排除のない社会への包摂) という理念や、従来の所得保障中心の福祉 (welfare) から、若年失業者を再び労働市場へ参入させようとするワークフェア (work fare 労働機会の提供による福祉の実現) への転換の強調などがそれであり、いずれも、この新しい貧困の克服を課題としている。

日本では欧米に10年遅れて90年代半ば以降になって、格差社会に遭遇した。

[ b ]は、日本のフリーターの姿でもある。今日のフリーターやパートタイム労働者は、単に非正規雇用であるだけでなく、事実上日雇のような、きわめて不安定な雇用関係に置かれることが少なくない。

就職情報誌などで見る「激短&日払い!」「掛け持ち OK!!」「1日だけでも OK」といった短期就職の場合は、もし、その収入だけで暮らしていくとすれば、それらの短期就業を日々つなぎ合わせていくような綱渡りか、一日のうちに二つか三つの仕事に就くことを余儀なくされることだろう。むろん、そうした綱渡りや二重就業が、いつも保障されているわけではないから、そうした働き方では暮らしていけない人々が生まれてくるのは必然である。

しかし、不思議なことであるが、日本では格差社会論はあるが、これまで本格的な貧困論は必ずしも展開されてこなかった。所得の格差は、確かに低所得層をあぶり出すが、それはあくまで高所得層に対する低所得層であって、貧困者ではない。<sup>(2)</sup>ニートやフリーターも、必ずしも貧困問題として議論されているわけではない。格差があっても別にいいじゃないか、という意見も結構強い。それが今ようやく、ワーキングプアという外来語を介して、貧困が意識され始めた。

岩田正美 「現代の貧困」(2007年発刊)より改変引用

注: ラウントリー(1871生 - 1954没)は英国の社会調査家で、ヨークで貧困調査を行った。

設問 1. 空欄[a]と[b]に入る、本文中で使われている語句を答えなさい。

設問 2. (1) と (2) の外来語の意味をそれぞれ 50 字以内で説明しなさい。

設問 3. 本文中にある「貧困」と「格差」の違いを 100 字以内で述べなさい。

設問 4. 本文にふさわしいタイトルを 20 字以内で述べなさい。

設問 5. 現代のわが国における貧困の原因についての考察と、あなたの考える対策について、400 字以内で述べなさい。

*Windom*